

令和元年度「中城ごさまる科」について

1 目 的

本村の幼小中学校において、地域の歴史・文化に係る地域素材を積極的に教材化し、特に本村が有する世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つ「中城城跡」とその城主「護佐丸」を素材に取り上げ、中城の歴史と文化、世界遺産を有する本村について触れ、郷土の理解を深めることや郷土への誇りと愛着を育み、自らの目標に向かって学び続ける児童の育成を目指す。

2 事業の概要・実績

本事業は、村内全ての小学校を教育課程特例校として申請し、平成26年度から「中城村ごさまる科」を導入して6年目を向かえる。副読本・指導書・教材DVD等を作成し、故郷の歴史・文化・自然学習を行っている。

中学校においては、副読本を作成し、総合的な学習の時間において指導している。

ごさまる科の児童アンケートでは、9割以上が「地域の歴史を学ぶことで、日本史など広く歴史を学ぶ意欲の向上に繋がった」と答えている。

3 学校関係者の評価

(1) 成果

- ・ 小学校において「ごさまる科」を導入し地域の歴史や琉球史を学ぶ機会があるということは、地域への愛着・誇りをもつということで大変評価できる。
- ・ 先駆的な取り組みで世間の関心も高く、護佐丸歴史資料図書館でDVD教材の鑑賞ができるので評価できる。
- ・ ごさまる科の学習において、中城城跡の現地見学や歴史の道の案内人など地域の人材を活用しているので評価できる。
- ・ 特例校として歴史文化学習を行うために、授業時数の確保や指導内容の方針について学校や関係機関と協力し、授業を実施できたことは評価できる。
- ・ 児童が教材を活用し地域の歴史を学ぶ取組もみられ、郷土史の発展学習に繋がったので評価できる。
- ・ 小学校においては、護佐丸歴史資料図書館を活用した取り組みも行われており評価できる。
- ・ 小学校と中学校で、それぞれ年2回の教材研究会を実施することで、年間指導計画の見直しや授業での発表方法の情報交換を行うことができ、授業改善へ生かすことができたので良かった。
- ・ 授業研究会を、小学校1・2年、小学校3・4年、小学校5・6年に分かれて実施したので、より実践的な教材研究ができたので良かった。これにより、見通しをもって指導することができた。
- ・ 各学校の校内研修や学年会において、中城城跡を見学したり外部講師を招聘したりすることで、授業改善に役立つ知識を得ることができ、指導に生かすことができた。

(2) 課題と対応策

- ・ 「中城ごさまる科教材研究会」に講師を招聘し、研究会の充実を図る。
- ・ 自己評価や学校関係者評価の方法や内容について工夫が必要。